

要介護状態になっても自分らしく生き抜くため
に



『静岡県富士市』
特定非営利活動法人ハッピーネット富士
まほろば 秋山幸枝

生きることに寄り添うケア



静岡県富士市の介護保険関連の現状

- ・人口・・・252,288人(2020年12月1日現在) 高齢化率 26.1%
- ・要介護(要支援)認定者数・・・・・・10,480人(2020年6月現在)
- ・居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)・・・・67か所
- ・地域包括支援センター・・・・・・8か所
- ・介護保険事業者数・・・約382か所(地域密着型76か所)

地域密着型サービスの創設の背景

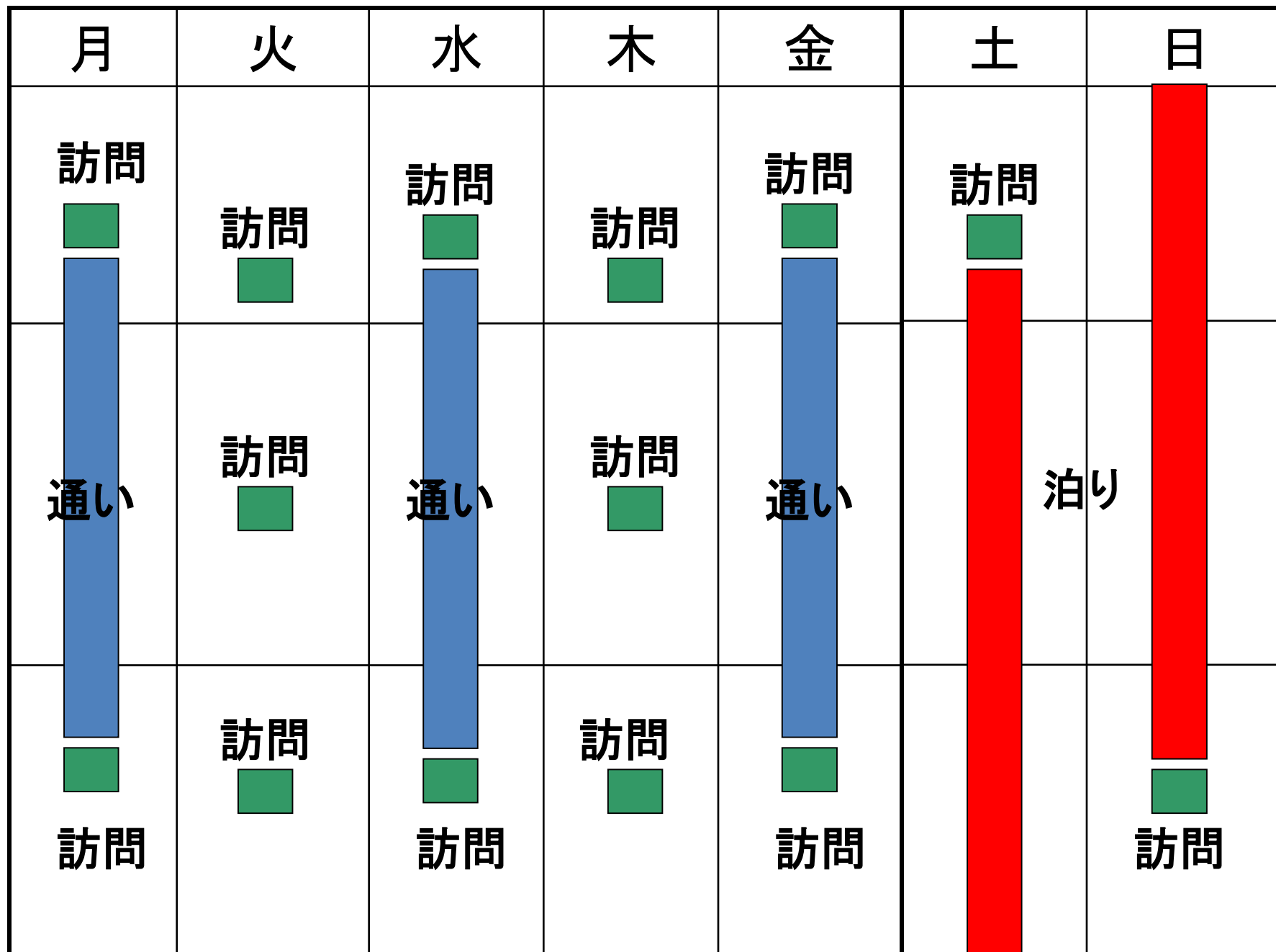
a.2000年(平成12年)介護保険法施行により家族介護から社会介護に、**自立支援と在宅支援**を目指し、科学的・客観的なアセスメントをベースに、利用者自身の参加のもとに本人のニーズと合意に基づくケアプランを作成し、これを管理していく手法としてケアマネジメントが導入されました。**ケアマネジャーの誕生**

b.2006年(平成18年)介護保険法改正

- * 制度の「持続可能性」
- * 「明るく活力ある超高齢社会」の構築
- * 社会保障の総合化を目指し、予防重視型システムの転換、施設給付の見直し、**新たなサービス体系の確立**、サービスの質の向上。



地域密着型サービス

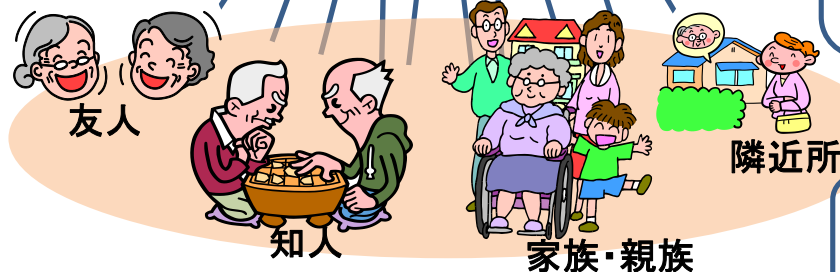


小規模多機能型居宅介護のケアマネジメント (ライフサポートワーク)

- これまでの介護保険サービスでの支え方は、先ず介護保険サービスを入れ、足らなくなった分を地域の資源で補おうとしてきた。しかし、これでは地域での暮らしを継続できないし、自立支援とならない
- 地域での暮らしの支援(ライフサポート)は、まず本人の地域での暮らしそのものを支援することから始めなければならない。介護サービスを入れることが優先されるのではなく、介護サービスは暮らしを下支えするものでなければならない
- 「日常生活圏域で暮らしを支援すること」とは、本人、家族・介護者および地域住民の立場からの視点が大事である。事業者中心の視点であってはならない。
自らが生活する場をどのように創るのかは、地域包括ケアの中で、地域における「最適」を地域住民が自ら選ぶことが大切であり、物の見方・捉え方、物事の進め方など住民の視点・ペースで進めることが重要である
- 地域拠点(ライフサポートセンター)は、これまでの施設のようにすべての機能を持つことを目指すものではなく、本人がどのように暮らしたいのか(自己決定)、本人の持てる力を生かし(自立支援)、これまでの暮らしの継続(生活の継続性)を支援することが求められる

本人中心の支援機能(3層構造)

第1層
これまでの関係の継続



本人が人生でつむいできた「糸」を生かし、つむぎ直し、支援の輪を構築する

第2層
地域での助け合い

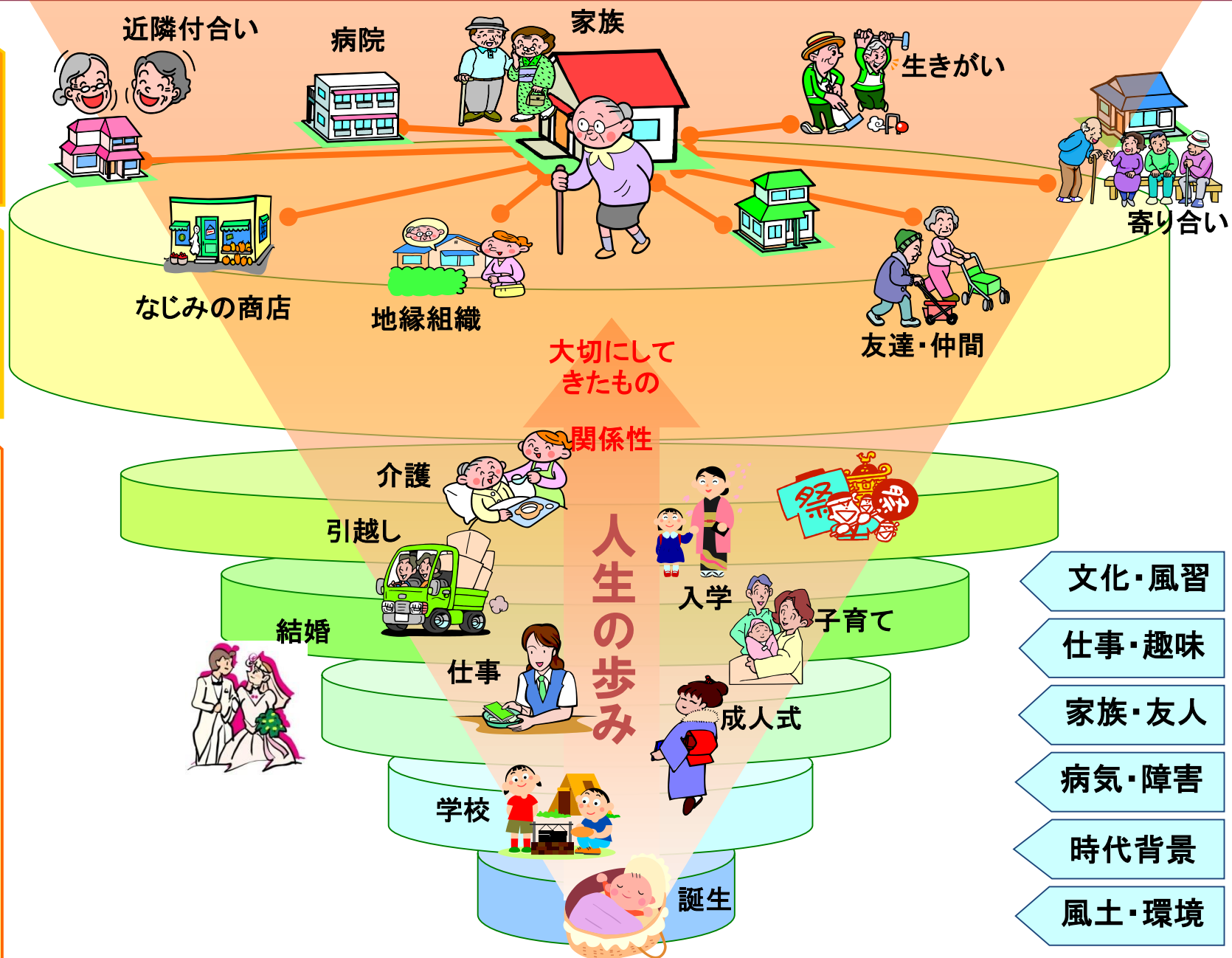


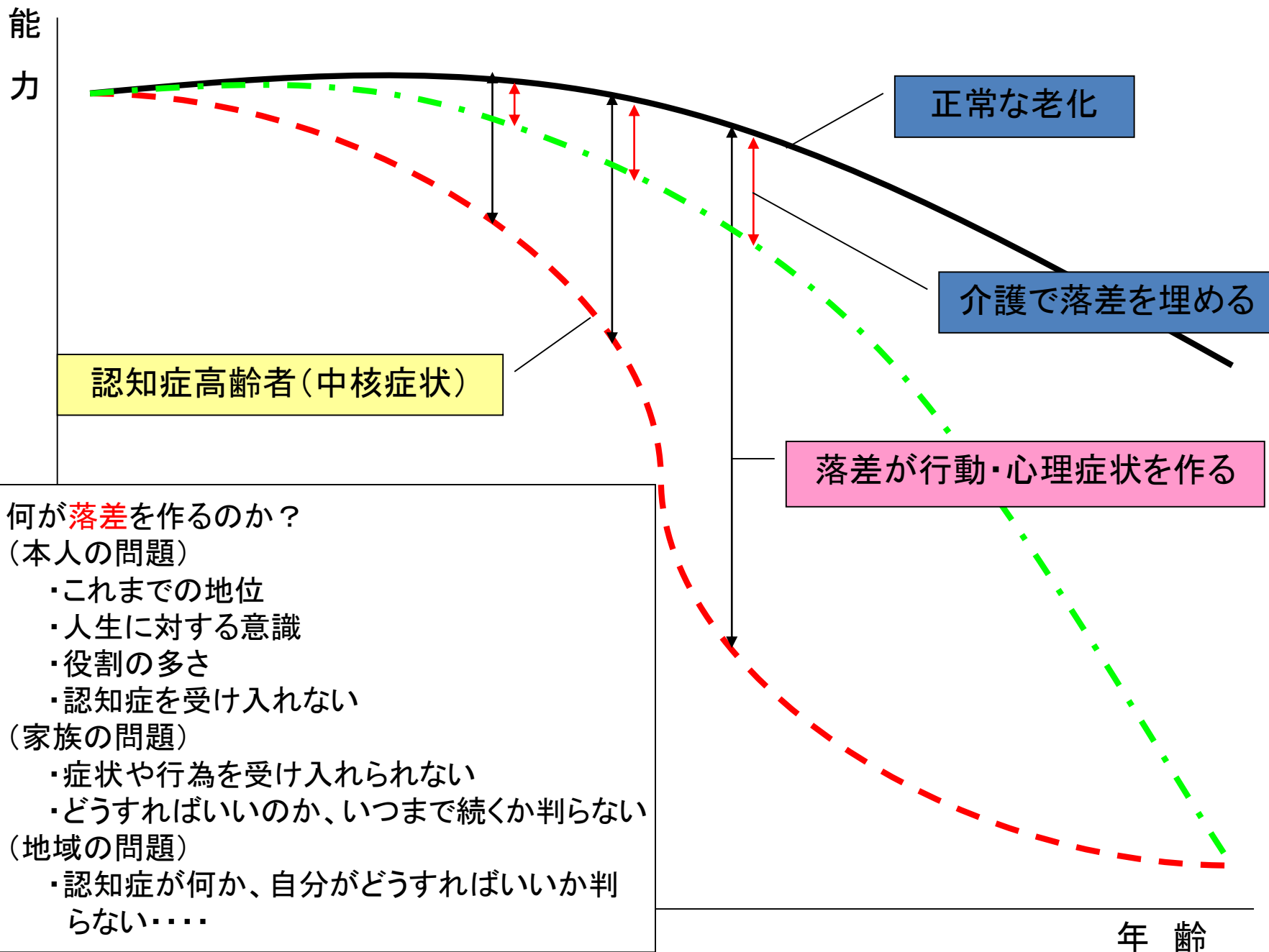
地域での声掛けや見守り
ネットワーク等

第3層
ソーシャル・セーフティ・ネット

ケア力

人生の歩みの中で築かれたその人の暮らし





小規模多機能型居宅介護(小規模多機能) がなぜ誕生したのでしょうか???

メリット

居宅介護

自宅に暮らし続けられる
地域の様々な資源や関係を活かせる
個別的で自分らしい暮らしが可能

デメリット

複数の事業者、資源が混在する
家族や周囲の介護負担に依存する
出来高報酬で経済的負担が大きい
地域の資源やケアマネの力量に左右される
24時間365日に切れ目が出る

小規模多機能型居宅介護

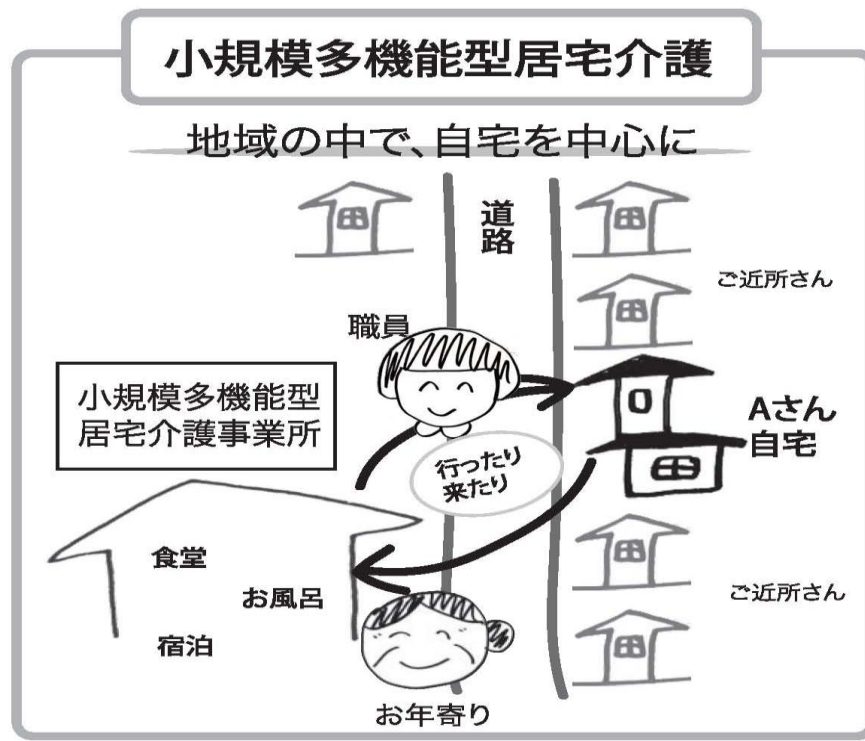
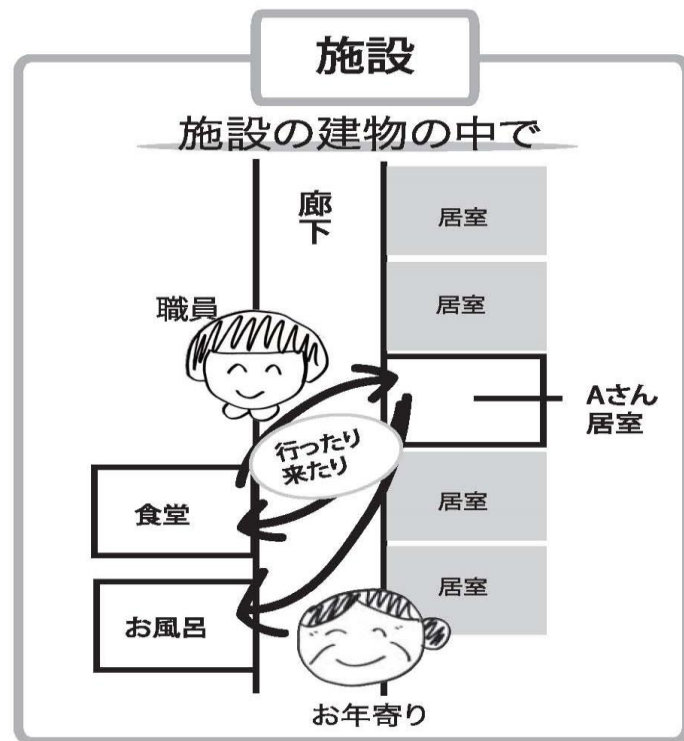


施設介護

24時間365日の安心
多専門職が包括している
場所／人／ケアが変わらない
包括報酬
家族や周囲の介護負担が軽減される
介護・医療・生活支援が一体的

自宅での暮らしが継続できない
事業所が抱え込み
地域との関係が途絶える
一方的で画一的になり易い

小規模多機能型居宅介護は、月額のパッケージ報酬で「通い」「宿泊」「訪問」機能を駆使し、施設の持つ24時間・365日の安心が地域の中で実現するようなイメージ



小規模多機能型居宅介護サービスは、施設の在宅版のようなサービスです。施設の居室を自宅と捉え、廊下は道。施設の職員が居室にお邪魔するように自宅に訪問したり、日中のつどいの場として食堂へ集まるように事業所に通います。「通い」や「宿泊」「訪問」といったあらゆる機能を使って、自宅での暮らしを支えています。





施設概要

1. 2007年(平成19年)4月15日小規模多機能型居宅介護

まほろば 開所

登録定員25名(現在23名)通い15名 泊まり6名

訪問 その都度

2. 2010年(平成22年)5月15日グループホーム
1ユニット開所

3. 2013年(平成25年)9月1日サテライト型小規模多機能型居宅介護 開所 登録18名(現在16名)

まほろば 理念

1. 利用者が可能な限り住み慣れた地域での生活が継続できるように支援します。
2. 利用者の心身の状況・希望及びその置かれている環境を踏まえて、通い・訪問・宿泊のサービスを適切に提供し、心身機能の維持回復・向上に努めます。
3. 丁寧な介護をモットーに利用者一人ひとりの人格を尊重し、それぞれの役割を持ちながら家庭的な環境の下で日常生活を送ることができるよう支援します。

本人と家族にとって必要な支援とは？

1. どうしたら自宅で、自分らしく生活できるか。
その為には私達はどう支援していけばよいのか。
2. 本人と家族の心の葛藤を癒せるのは？
【行動心理症状】
3. 元気になる為にどのようにしていくべきか。
4. 医療連携をどう取っていくか。
5. 地域とのかかわりはどうしていくべきか。

センター方式で探る

・本人とどう関わっていくか。



落ち着かず不安な表情をしている



特定の職員が常に関わり、徐々に皆の中に

・介護を担っている妻・夫の思いは？



もう限界。でもお父さん・妻と一緒にいたい

・本人の好きなことは？



楽しい事なら何でも。役に立ちたい。

・医療ニーズは？



自宅にかかりつけ医が往診・もしくは定期受診

・介護力資源は？



妻・夫・事業所以外は期待できない



尊厳とかかわりを根本に1～5の解策 ケアスタッフの3つの力

1. 介護技術力

3大介護（排泄・入浴・食事） ＋ トランス＋認知症の人との関わり方

2. 生活力

- a. 清潔な暮らしは出来ているか。
（お風呂・衣類・寝具・部屋の中・台所）等
- b. 3度の食事はとれているか。
- c. 定期受診は出来ているか。
- d. 本人にとっての生活リズムで動けているか。

3. マネジメント力

本人が望む暮らしは？ 家族の介護力は？

地域とのかかわりは？ かかりつけ医との連携等

訪問チェック表

※(気づきましよう、気づいたら施設長まで連絡ください)

訪問日 H 年 月 日 ()

	チェック内容	チェック	備考
1	お薬は飲めているか		
2	火の始末はできているか		
3	トイレは、ちゃんと行けているだろうか		
4	冷蔵庫の中は空っぽになっていないだろうか		
5	三度の食事はちゃんと摂れているだろうか		
6	どのくらい食べられているのだろうか		
7	水分摂取はできているだろうか		
8	最近の体調の変化はどうだろうか		
9	洗濯物は溜まっていないだろうか		
10	ちゃんとお風呂に入れているかな		
11	何かない物が見えていたりしないだろうか		
12	家族に黙って出かけてしまっていないだろうか		
13	飼っているペットが部屋を汚していないだろうか		
14	便秘はしていないだろうか		
15	訪問販売などで不要な買い物をしていないだろうか		
16	ご近所さんとの関係はうまくいっているだろうか		
17	ご家族との関係はうまくいっているだろうか		
18	朝はちゃんと起きているだろうか		
19	お着替えがちゃんとできているだろうか		
20	自宅での生活リズムはどうだろう等々		
21			
22			
23			
24			
25			
26			

訪問にて利用者 さんと一緒に





事業所として地域にどう溶け込むか

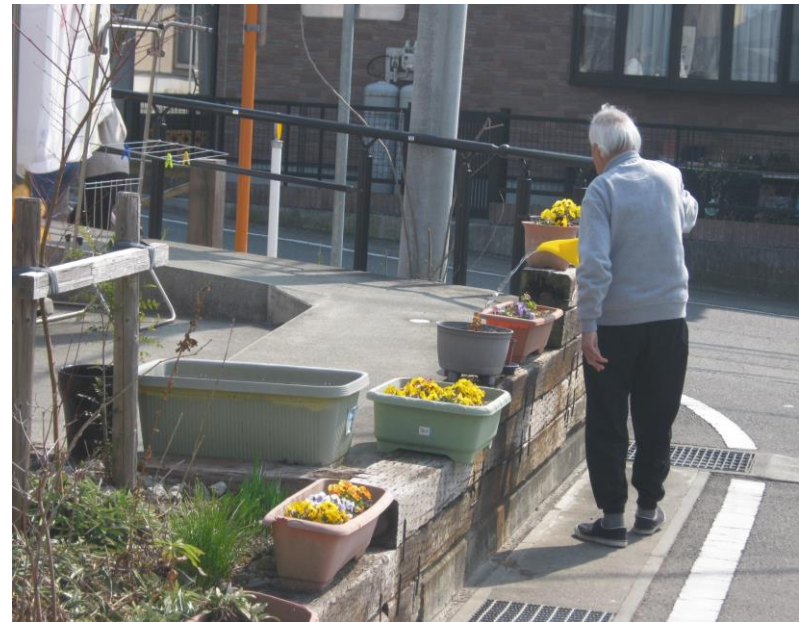
1. 町内会に参加させて頂く。回覧板がまわってきて公園や公会堂の掃除に参加。
2. 散歩や毎日庭に出て地域の人にあいさつ。
3. 民生委員協議会に毎月参加し、担当の民生委員さん宅や町内会長には運営推進会議の案内を持参。
4. 地域の行事には利用者さんと必ず参加。
5. 地域の方を職員として採用。



質の確保 サービス評価の意味すること

- これからの地域包括ケアの中での、私たちの果たす役割を明らかにしていく
- 圏域で評価されることの意味
- 圏域でマイナス評価されることの意味
- 私たちの真摯な取り組みは必ず評価される
- 一步一步の向上: 数年後には必ず成果が出る
- POINT
 - スタッフ全員で自己評価
自らの実践を、チームで改善する
 - 運営推進会議での意見には、オールドカルチャーの意見がある。
根気強く理解してもらうこと、これが地域に必要。
 - 改善課題は、具体的に。スモールステップで確実に一步一步進もう。

通いで散歩や庭を利用して



いつもの生活をいつものように



まちづくりセンターで 月1回子育てサロンに参加



市町村による新しい地域づくりの推進(介護予防・生活支援の充実)

- 市町村が中心となってコーディネーターと連携しつつ、生活支援サービスの充実、介護予防の推進等を図ることにより、高齢者が利用可能な多様なサービスが地域で提供される。
- 高齢者の中には事業の担い手となる者も出現。これは介護予防にもつながる。
⇒ 高齢者を中心とした地域の支え合い(互助)が実現。

市町村が中心となって企画・立案

地域資源の開発

(例)

・ボランティアの発掘・養成・組織化

→ ボランティアは生活支援・介護予防の担い手として活動。高齢者の困り事の相談の対応等も実施。(コーディネーターとも連携)

・生活支援・介護予防の立ち上げ支援

連携・協力

コーディネーター

介護予防・生活支援の充実

多様な通いの場

(例) ・サロン

- ・住民主体の交流の場
- ・コミュニティカフェ
- ・認知症カフェ
- ・ミニデイサービス
- ・体操教室
- ・運動・栄養・口腔ケア等の教室

多様な生活支援

(例) ・ゴミ出し

- ・洗濯物の取り入れ
- ・食器洗い
- ・配食
- ・見守り
- ・安否確認

参加・活用
(担い手となる
高齢者も出現)

支援を要する高齢者

研修を受けたボランティアが地区の集会所で介護予防教室を運営。

小規模多機能居宅介護に交流施設を併設。地域のサロンとして活用。子どもとの交流も実施。

研修を受けたボランティアが高齢者と一緒に洗濯物を取り入れる等生活行為の自立を支援。

地域活性化を推進するNPOが地域に配食サービスを展開。

交番、金融機関、コンビニ等幅広い関係機関が連携し、認知症の高齢者の見守り体制を構築。

縁側（認知症）カフェ

喫茶店（サロン活動）の意味・目的

1. 地域のボランティアさんにも小規模多機能を知ってもらえる。
2. 地域の方と顔なじみになれる。
3. 認知症の人やご家族の悩みを共有できる。
4. 閉じこもりがちな高齢者の集いの場となれる。
5. 利用者さんも地域の方と交流・共生できる。
6. 独居の方も声をかけあえる。

縁側カフェの看板ちらしとメニュー



喫茶 梅の里
12月20日(金)
OPEN 午後2時～
ご注文時に「チケット」をご提示下さい





まほろば 喫茶 梅の里

26年度 天間北2 梅の里喫茶

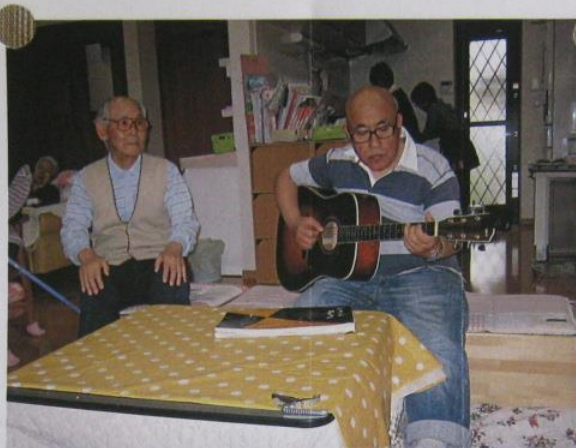
担当	ボランティア等開催内容	開催
H26.4.22 (火)	小林禮子 集い・銭太鼓	14:00～
H26.5.20 (火)	大友よね子 集い・シャンソン	14:00～
	児玉 "	14:00～
H26.6.17 (火)	田中美由紀 集い・三味線	14:00～
H26.7.22 (火)	宇佐美 弘 集い・ハワイアン	14:00～
H26.8.19 (火)	内海 正子 集い・認知症サポーター養成講座	14:00～
H26.9.9 (火)	田辺丈夫 集い・「薬しく身体を動かしましょう！」講師:運動療法士	14:00～
H26.10.21 (火)	高橋八千代 集い・日本舞踊	14:00～16:00
H26.11.18 (火)	集い・ボランティア	14:00～16:00
H26.12.16 (火)	集い・ボランティア	14:00～16:00
H27.1.20 (火)	鹿岡包括 集い・「包括について」講義・介護・福祉・医療相談	14:00～16:00
H27.2.17 (火)	集い・ボランティア	14:00～16:00
H27.3.17 (火)	集い・ボランティア	14:00～16:00
		14:00～16:00
吉野俊博	オカリナ	14:00～16:00
三好	ハーモニカ	14:00～16:00
西 京	三味線	14:00～16:00

Drink

コーヒー (Hot/Ice)
茶 (Hot)
メンティー (Ice)
茶 (Hot/Ice)
麦茶 (Ice)
オレンジジュース
りんごジュース

Sweets

手作りフルーツ寒天
クッキー (バニラ/チョコ)
ミニカステラ





☆認知症サポーター 養成講座☆

8月19日 (火)
午後2時～4時

まほろば 喫茶
梅の里



ご清聴ありがとうございました。

参考文献

ライフサポートワーク実践テキストブック

